

サイエントロジー その真の性質

ハリー・ヘイノ
神学教授
タンペレ大学
フィンランド、ヘルシンキ

1995年10月26日



サイエントロジー

その真の性質

サイエントロジー
その真の性質

目次

I.	宗教について明確な定義がない	1
II.	サイエントロジストがそれを宗教であると見なす	2
III.	主要な宗教社会学者が宗教として分類	2
IV.	ダイアネティックスからサイエントロジーへ	3
V.	神学と死後の世界	3
VI.	人間についての考え	4
VII.	救済	4
VIII.	サイエントロジー教会	5
IX.	礼拝	5
X.	サイエントロジーは宗教である	6

ハリー・ヘイノ
神学教授
タンペレ大学
フィンランド、ヘルシンキ
1995年10月26日

サイエントロジー その真の性質

サイエントロジーは近年いくつかの場面で登場し、フィンランドでも一般討論会のテーマになっている。いくつかの国と比べると、フィンランドではその宗教的性質についてほんの少ししか触れられていない。以下の論文では、サイエントロジーが宗教団体であるかという疑問、そしてこの結論の基礎に焦点を当てる。

I. 宗教について明確な定義がない

宗教や宗教団体は数多くの現象から成っているため、科学者にとって宗教の定義に対する同意に至ることはできていない。フィンランドの宗教社会学において、宗教は、アメリカ人のグロックとスタークによって提示された、以下の5つの側面によって特徴付けられることが多い。

1. 経験的側面 (宗教的感覚、神の体験および姿を見るなど)。
2. イデオロギー的側面 (神、死後の人生、救済についての考え)。
3. 儀式的側面 (祈り、瞑想、礼拝、人生のさまざまな局面と関係ある宗教儀式などを実践する個人や宗教団体)。
4. 知的側面 (信仰内容の知識)。
5. 結果的側面 (救済、心の平穏、正しい振舞い)。

どの宗教の定義にも通常、特定の信仰の考えがあると思われる。これに従えば、人生そのものの最も深い意味と調和を引き起こすだろう。これは個別の神、至高の存在、宇宙や倫理的な人生の基盤かもしれない。第二に、宗教には宗教儀式、振舞いの規範が含まれる。第三に、宗教には信者や会員の団体が必要である。

II. サイエントロジストがそれを宗教であると見なす

サイエントロジーの創設者L. ロン ハバードの著作が、サイエントロジー宗教の基盤を成す。ハバードは宗教的崇拝の対象ではないが、確かに宗教的な賞賛と献身の対象である。サイエントロジストによれば、ハバードは宗教哲学、および人類にとって共通の基本的な理想を伴った、またすべての宗教が効果的に実現できる実践的な適用の手段を生み出すことができた。サイエントロジストは自らの宗教に関して、人類の永遠の夢を実現する20世紀の宗教と見なしている。世界をもっと住みやすい場所にして、人々が最も深遠な精神的アイデンティティーを見出せるように助ける。ハバード自身は、サイエントロジーをヒンドゥー教、ヴェーダの宗教、道教、仏教、ユダヤ教、キリスト教を含む古い宗教の伝統を継承したものと見なす。

III. 主要な宗教社会学者が 宗教として分類

ほぼ例外なく、すべての新宗教のハンドブックには、サイエントロジーに関する章が含まれている。

アイリーン・バーカーは、ロンドン大学の教授であり、『新しい宗教運動：社会を理解する見方 (New Religious Movements: A Perspective for Understanding Society)』 (1982年)、『新しい宗教運動：実用的な紹介 (New Religious Movements: A Practical Introduction)』 (1989年)。

ブライアン・ウィルソン、オックスフォード大学名誉助教授 『宗派心の社会的な側面 (The Social Dimensions of Sectarianism)』 (1990年)、そして

J. ゴードン・メルトン『アメリカ宗教百科事典 (The Encyclopedia of American Religions)』 (1993年)。

また『Lexikon Der Sekten, Sondergruppen Und Weltanschauungen』 (1991年)など、ドイツのほとんどの出版物で宗教として分類されている。

好例として、ブライアン・ウィルソンは、著書の中でサイエントロジーが宗教であることについて広範に述べている。

IV. ダイアネティックスからサイエントロジーへ

ダイアネティックスは、元々ハーバードによって開発された、かなり限定的な治療法だった。それは1950年に、ハーバードのベストセラー『ダイアネティックス：心の健康のための現代科学』が出版された時点で広く知られるようになった。ダイアネティックスの目的は、その精神的外傷の経験や記憶の映像、エングラムから人を解放することで、ハーバードが「クリアー」と呼ぶ状態に到達することである。

ダイアネティックスは、たちまちサイエントロジーへと発展し始め、そこでは形而上学と精神性が強調される。それは、人間とは基本的に精神的なビーイング、「セイタン」であるという考えに基づいている。サイエントロジーの役割は、無知と物質の従属物に陥ってしまったセイタンの意識を再び本来の精神的な性質に戻すことである。

完全な形であらわれた宗教はひとつもない。数十年あるいは何世紀も掛けて宗教へと発展した後でのみ、人はそのものを意識する。例えば、神学的な理解とキリスト教の宗派の組織は、形成するのに何十年も掛かった。サイエントロジーは、すぐに最終的な形態になったと仮定するのは不公平であろう。

V. 神学と死後の世界

サイエントロジーでは神についてほとんど触れない。しかしながら、神や神の存在を信じる。それは有神論の人格神を必要としないが、ある種の神の概念について、至高の存在、あるいはサイエントロジーでいう第8の影響領域「神のダイナミック」としてよく表現される。

世界の宗教のすべてではないが、ほぼすべての宗教が人格神を信じていると心に留めておくべきである。例えば、それはヒンドゥー教の大部分に見られる。小乗仏教は、その哲学的な形態において紛れもなく無神論である。にもかかわらず、それは通常、主要な宗教と位置付けられる。

VI. 人間についての考え

サイエントロジーにおける基本的な考えは、人間とは何よりも精神的な存在「セイタン」であり、魂のようなもの、非物質的で、不滅であり、無制限の権限と潜在能力を持つものである。このセイタンが地球に現れる時、物質的な人間の身体を所有する。

セイタンが物質世界の鎖による罫にはまると、実際の存在性の知識が失われた。この見地から、サイエントロジーはグノーシス主義とネオ・グノーシス主義運動のひとつであり、それは通常、人間の基本的なアイデンティティーについて失われた(しばしば秘密の)知識を持っているという考えを思い起こさせる。そしてその役割は、人の生来の精神的な意識と神の意識を目覚めさせることで、その人は、生と死の境を自由に越えられるようになる。

VII. 救済

サイエントロジーによれば、この人生と過去の再生の精神的外傷を伴う経験は、理性的な振舞いと精神的な発展の障害である。サイエントロジーのオーディティングの目的は、悪い記憶の連鎖である「反応心」からセイタンを解放すること、そして救済の可能性を想起することである。

その目標は完全なOT(機能しているセイタン)という神のような状態である。それによってセイタンは、この人生におけるすべての制約から解放される。

インドの宗教と同様に、サイエントロジーは、人間は過去の行為(ヒンドゥー教や仏教の輪廻との比較)から解放されなければならないと考える。それが数多くの再生の連鎖を蓄積した。救済についてのサイエントロジーの考えは、この人生と死後の人生の両方から成る。いずれの場合も完全なる自由へのブリッジを約束する。

個人の救済のほかに、サイエントロジーは、私たちの惑星全体をクリーンにし、不合理や犯罪、戦争のない文明を生み出す役割があると見ている。サイエントロジーの術語において、救済の同義語は「生存」である。これには現在の人生と死後の人生の両方が含まれる。そのためにオーディティングとそれに用いられるEメーターで、人が自分の本来のアイデンティティーを見付けられるようにする。

VIII. サイエントロジー教会

サイエントロジー教会は、階層型の組織と経営組織とを持つ宗教団体である。一番下のレベルには、これらによって率えられるフィールド・オーディターとダイアネティックスのグループがある。次のレベルを成すのが、ダイアネティックスとサイエントロジーの基本的なサービスを提供するサイエントロジーのミッションである。これらは一種の伝道組織であり、新しいメンバーにアプローチすることが狙いである。ミッションが成長し、その活動が拡張すると、通常サイエントロジー教会になる。サイエントロジー教会の聖職者は、教会員の結婚、家族やその他の問題に対してサービスを提供し、命名式、結婚式、葬儀など、サイエントロジーの宗教儀式を行い、日曜サービスも行う。

セントヒル・オーガニゼーションは中央教会であり、より高いレベルのオーディターのトレーニングを専門に扱う。このような中央教会は、ロサンゼルス、シドニー、イギリスのイーストグリンステッド、コペンハーゲンにある。全世界のサイエントロジストの精神的拠点、フロリダ州クリアウォーターのフラッグ・サービス・オーガニゼーションであり、最高レベルの宗教サービスを提供する。フラッグシップ・サービス・オーガニゼーションは、すべての最高レベルのオーディティング (OT VIII) を提供する。そのトレーニングは、カリブ海域を航行するフリーウィンズ号 (Freewinds) という船上で行われる。

母教会の機能は、ロサンゼルス国際サイエントロジー教会によって行われ、世界規模でのミッション・キャンペーンの計画、トレーニング教材の編纂、ハーバードの作品を数多くの言語に翻訳している。

IX. 礼拝

サイエントロジー教会には、独自の聖職者、教義と信条があり、独自の礼拝がある。礼拝の一部には、L. ロン ハバードの講演テープを聞くこともある。それには「完全なる自由への祈り」も含まれる。

カリフォルニア州の母教会によって編纂された教会のハンドブックには、命名式、結婚式、葬儀のための指示も含まれる。命名式は、セイタンが自分の新しい身体を認識し、自分の両親や家族、友人に正式に紹介するのを助けるために行われる。

しかし、サイエントロジーの礼拝や教会サービスは、伝統的なキリスト教会のように中心的な活動としての位置は占めていない。しかし、さまざまな宗教の礼拝が広範にわたることを留意すべきである。

例えば、典型的なヒンドゥー教の寺院は、通常彼ら全員に対して行われる共通の儀式はないが、個人や家族が自分たちの儀式を行ったり、宗教指導者に助言を求めるために行ったりする所である。また、祈りは宗教によって異なる意味を持つというのが自然であり、ある宗教では神が人格を持たない実体として理解され、ある宗教では人格神や神々が信じられ、伝えられる。

X. サイエントロジーは宗教である

上記のすべてにおいて、現在の形態のサイエントロジーは、重要な宗教儀式や特有の信条、しっかりと組織化された宗教団体を有する宗教であると結論付けられる。

ハリー・ヘイノ

タンペレ

1995年10月26日

ハリー・ヘイノ

ハリー・ヘイノ博士は、フィンランドのヘルシンキにあるタンペレ大学の神学教授です。

彼にはフィンランドの福音ルター派教会の研究センターの所長です。

彼にはフィンランドの宗教に関する『What Finland Believes (フィンランドが信じているもの)』という著作があります。

